

種別・頁	改定・訂正前	改定・訂正後																								
<p>標準単価・市場単価・参考資料編</p> <p>P239（参17）</p> <p>第4章 工期の算定</p>	<p>埼玉県における年間の不稼働日数 （降雨降雪日のデータは気象庁（熊谷地方気象台）、猛暑日のデータは環境省（埼玉県熊谷）による。）</p> <table border="0"> <tr> <td>降雨降雪日+猛暑日+休日</td> <td>160日</td> <td>（稼働日数=365日-160日=205日）</td> </tr> <tr> <td>降雨降雪日のみ</td> <td>24日</td> <td></td> </tr> <tr> <td>猛暑日のみ</td> <td>11日</td> <td>（日数=WBG値31以上の時間/8h）</td> </tr> <tr> <td>休日のみ</td> <td>125日</td> <td></td> </tr> </table> <p>雨休率 0.78 （雨休率=（降雨降雪日+猛暑日+休日）÷稼働日数=160日÷205日=0.78）</p> <p>④ その他の不稼働日 休日及び降雨降雪日以外の不稼働日数には、次のことを考慮する。 ア 工事の性格の考慮 工事を行うにあたっては、その工事特有の条件がある。その条件によっては、その条件を考慮した工期設定を行う必要があり、その条件に伴う日数を必要に応じて加算する。 イ 地域の実情の考慮 当該工事を行う地域によっては、何らかの理由（例：出水期、地域の祭りなど）により施工できない期間や規制による作業量の低下等がある場合は、それに伴う日数を必要に応じて加算するものとする。 <地域の実情に応じた作業制限の例> ・河川の出水期における作業制限 ・地元の催事等に合わせた特別休暇・不稼働日 ・駅伝やお祭り等、交通規制が行われる時期 ・夜間作業を伴う工事における騒音規制等への対応と労務確保 ウ その他 上記ア・イ以外の事情がある場合は、適切に見込むこと。</p> <p>⑤ 後片付け期間 後片付け期間は、工種区分毎に大きな差が見受けられないことから、20日を最低限必要な日数とし、工事規模や地域の状況、重建設機械の分解・片付け等に応じて設定※するものとする。また、必要に応じて、検査に要する各種電子データの作成に要する期間を反映する。 ※通年維持工事は除く</p> <p>⑥ 工期設定の条件明示 設定された工期に特記事項がある場合には、特記仕様書にその条件を明示する。 例・工事の性格、地域の実情、自然条件等で日数を見込んだ場合 ・その他、特記すべき事項がある場合</p> <p>【施工に必要な実日数】+【不稼働日】の計算例 掘削 2,100 m³（1日当り作業量 300 m³とした場合） 施工に必要な実日数=2,100m³/300m³=7日 不稼働日を考慮した実日数 =7日×（1+0.78） ≒13日 ※工期の算定の際にはさらに「準備期間及び後片付け期間」を考慮すること。</p>	降雨降雪日+猛暑日+休日	160日	（稼働日数=365日-160日=205日）	降雨降雪日のみ	24日		猛暑日のみ	11日	（日数=WBG値31以上の時間/8h）	休日のみ	125日		<p style="text-align: center;">赤書き箇所：改定</p> <p>埼玉県における年間の不稼働日数 （降雨降雪日のデータは気象庁（熊谷地方気象台）、猛暑日のデータは環境省（埼玉県熊谷）による。）</p> <table border="0"> <tr> <td>降雨降雪日+猛暑日+休日</td> <td>163日</td> <td>（稼働日数=365日-163日=202日）</td> </tr> <tr> <td>降雨降雪日のみ</td> <td>25日</td> <td></td> </tr> <tr> <td>猛暑日のみ</td> <td>13日</td> <td>（日数=WBG値31以上の時間/8h）</td> </tr> <tr> <td>休日のみ</td> <td>125日</td> <td></td> </tr> </table> <p>雨休率 0.81 （雨休率=（降雨降雪日+猛暑日+休日）÷稼働日数=163日÷202日=0.81）</p> <p>④ その他の不稼働日 休日及び降雨降雪日以外の不稼働日数には、次のことを考慮する。 ア 工事の性格の考慮 工事を行うにあたっては、その工事特有の条件がある。その条件によっては、その条件を考慮した工期設定を行う必要があり、その条件に伴う日数を必要に応じて加算する。 イ 地域の実情の考慮 当該工事を行う地域によっては、何らかの理由（例：出水期、地域の祭りなど）により施工できない期間や規制による作業量の低下等がある場合は、それに伴う日数を必要に応じて加算するものとする。 <地域の実情に応じた作業制限の例> ・河川の出水期における作業制限 ・地元の催事等に合わせた特別休暇・不稼働日 ・駅伝やお祭り等、交通規制が行われる時期 ・夜間作業を伴う工事における騒音規制等への対応と労務確保 ウ その他 上記ア・イ以外の事情がある場合は、適切に見込むこと。</p> <p>⑤ 後片付け期間 後片付け期間は、工種区分毎に大きな差が見受けられないことから、20日を最低限必要な日数とし、工事規模や地域の状況、重建設機械の分解・片付け等に応じて設定※するものとする。また、必要に応じて、検査に要する各種電子データの作成に要する期間を反映する。 ※通年維持工事は除く</p> <p>⑥ 工期設定の条件明示 設定された工期に特記事項がある場合には、特記仕様書にその条件を明示する。 例・工事の性格、地域の実情、自然条件等で日数を見込んだ場合 ・その他、特記すべき事項がある場合</p> <p>【施工に必要な実日数】+【不稼働日】の計算例 掘削 2,100 m³（1日当り作業量 300 m³とした場合） 施工に必要な実日数=2,100m³/300m³=7日 不稼働日を考慮した実日数 =7日×（1+0.81） ≒13日 ※工期の算定の際にはさらに「準備期間及び後片付け期間」を考慮すること。</p>	降雨降雪日+猛暑日+休日	163日	（稼働日数=365日-163日=202日）	降雨降雪日のみ	25日		猛暑日のみ	13日	（日数=WBG値31以上の時間/8h）	休日のみ	125日	
降雨降雪日+猛暑日+休日	160日	（稼働日数=365日-160日=205日）																								
降雨降雪日のみ	24日																									
猛暑日のみ	11日	（日数=WBG値31以上の時間/8h）																								
休日のみ	125日																									
降雨降雪日+猛暑日+休日	163日	（稼働日数=365日-163日=202日）																								
降雨降雪日のみ	25日																									
猛暑日のみ	13日	（日数=WBG値31以上の時間/8h）																								
休日のみ	125日																									